



タケエイグループ CSR報告書

2020



Only One Earth

環境を守ることは、未来を守ること

タケエイグループは「総合環境企業」として
資源循環型社会への貢献を目指します

編集指針

本報告書では、タケエイグループのCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを報告しています。トップメッセージを含む巻頭にて、社会課題の解決に向けた当社グループの考え方について示し、続けてその具体的な取り組みである再資源化ソリューション、都市型バイオマス発電事業を行う(株)タケエイグリーンリサイクル横須賀バイオマス発電所の特集ページを設けました。後半では、経営理念・経営ビジョンを軸に、3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から活動実績を報告しています。

報告対象期間

2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
※一部上記期間以外の内容も含んでいます。

報告対象組織

原則としてタケエイグループ((株)タケエイおよび子会社30社)を対象としています。対象範囲の異なる報告については、個々に対象範囲を記載しています。

免責事項

本報告書に含まれる将来に関する記述については、記述した時点で入手できた情報や計画に基づいているため、諸与件の変化によって異なる結果になることがあります。読者の皆さまには、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」

発行日

2020年7月(次回予定2021年7月)

本報告書に関するお問合せ先

株式会社 タケエイ CSR推進部 ISO推進グループ
〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階
TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839



CONTENTS

編集指針	01	■ 経営体制	コーポレート・ガバナンス	21
トップメッセージ	03	■ 環境のために	環境とのかかわり	23
タケエイグループの価値向上プロセス	09		事業活動に伴う環境負荷	24
持続可能な未来に向けて 再資源化ソリューション	11		エコ・ファーストの取り組み	25
特集 グループシナジーの最前線 株式会社タケエイグリーンリサイクル 横須賀バイオマス発電所	15		環境負荷低減活動	26
タケエイグループのCSR	19	■ 社会のために	お客さまのために	27
			安全衛生のために	28
			従業員のために	29
			地域・社会とのかかわり	31
		■ タケエイグループについて	会社概要	33
			事業概要	34
			事業ハイライト	35
			事業拠点	36



環境意識の高まりとともに増した当社の役割を自覚し、
資源循環型社会への貢献を目指すという経営理念のもと、
総合環境企業としての歩みを進めてまいります。

2019年度は、第4四半期に新型コロナウイルス感染症が国内でも拡大し、私たちの生活と経済が大きな困難に直面しました。罹患された方とご家族の皆さまには、心からお見舞い申し上げます。また、昼夜を問わず治療に臨まれている医療従事者と関係者の皆さま、私たちの生活を支えるお仕事を継続されている皆さまに対し、深く感謝を申し上げます。

今から13年前、私たちタケエイも皆さまから必要不可欠と思われる企業でありたいと願い「社会の公器になる」という理念を掲げて東京証券取引所に上場しました。お客さまとの関係だけでなく、広く社会性を持った企業であることを自らに課し、その考えは今日に至るまで変わっていません。そして「総合環境企業」として、資源循環型社会への貢献を目指すことを経営理念としてきました。

私たちの生活と経済にとって、短期間で解決できない環境問題は依然として大きな社会課題として存在し、社会の関心も数年前とは比較にならないくらい高まってきています。また、それに合わせて、私たちタケエイの社会的な存在感が増していることも肌で感じています。こうした社会情勢を受け、従業員一人ひとりがこれまで以上に高い当事者意識を持ち、志をより一層高めてもらうため、2020年5月に一般財団法人タケエイSDGs推進財団を設立し、SDGsの目標達成に寄与する企業となることを明示しています。

CSR、ESG、SDGsは、いずれも近年になって欧米を中心に広まった概念ですが、日本には古くからこれらと同じ「自分だけ良ければ」という考え方を否定する概念が存在していました。それが「売り手よし、買い手よし、世間よし」を謳った「三方よし」です。タケエイは、この「三方よし」に「環境よし」を加えた「四方よし」を掲げ、社会の公器として皆さまから必要とされる企業であり続けたいと考えています。

代表取締役会長 **三本 守**

代表取締役社長 **阿部 光男**



製品化とエネルギー化による
廃棄物の有効活用を通して、
タケエイグループが排出事業者のご要望に
ワンストップで対応できる体制づくりを
進めていきます。

代表取締役社長 **阿部 光男**

タケエイグループは2020年5月に新たな中期経営計画『2023 to the FUTURE』を発表し、「総合環境企業」として資源循環型社会とSDGsに貢献していく姿勢を打ち出しました。就任から1年が経過した代表取締役社長 阿部光男が、この中期経営計画に込めた想いを自らの言葉で語ります。

新中期経営計画『2023 to the FUTURE』について

当社グループと関連の高い国内建設市場が堅調であったこともあり、2019年度決算では主な経営目標をほぼ達成するなど、業績は比較的順調に推移しました。

しかしこれは、世界的な環境意識の高まりから、当社の社会的位置付けが変化し、それに伴って果たすべき責任も増してきたことの裏返しにほかなりません。新たな中期経営計画には、社会からの評価を一方的に享受するだけでなく、タケエイグループが各地域とそこで生活されている皆さまに対して果たす責任をコミット(約束)することが重要であるという考えが反映されています。

また近年は、時代の変化の流れが加速し、5年先を見通すのも極めて困難になっています。当社では前の中期経営計画については5ヶ年計画を策定していましたが、新しい中期経営計画『2023 to the FUTURE』(以下「中計」)では3ヶ年計画に変更しました。この新たな中計では、従来掲げていた定量的な目標に加え、定性的な目標として6項目を挙げています(右ページ参照)。大枠としては、廃棄物取扱量のさらなる拡大を図るとともに、その製品化とエネルギー化に向けて設備投資やM&A・協業化も検討し、タケエイグループが排出事業者の皆さまのご要望にワンストップで対応できる体制づくりを進めていきます。ただし、新中計のスタート直前に新型コロナウイルスが蔓延し、先行きに不透明さがあるこ

とから、必要に応じて1年後、2年後の見直しも想定しておく必要があると考えています。

ワンストップサービスの提供による効果

廃棄物処理を行う上で、どれだけ技術が進んでも、どうしてもリサイクルできず埋立や焼却せざるを得ないものが出てきます。埋立に関しては当社グループで最終処分場を保有していますが、焼却施設は保有していませんでしたので、これを新たに建設するための検討を開始しました。焼却施設を含む設備の新設等により、当社グループ内であらゆるリサイクルと廃棄物処理に対応できるワンストップ体制を整備することは、排出事業者の皆さまの安心感、ひいては廃棄物処理のコストダウンにもつながると確信しています。

定性目標の一つである「社会問題として深刻化している廃プラスチック等のリサイクルについてグループの対応力強化を図る」ことは、特に注力していきたいテーマです。マイクロ化したプラスチックごみによる海洋汚染が世界的に注目を集める一方で、アジアの一部の国における輸入規制により、日本国内でも廃プラスチックの行き場がなくなっています。当社グループでは、年間約75万トンの産業廃棄物を可能な限りリサイクルし、現状ではリサイクルが難しい廃棄物についても、再資源化に向けた技術開発や

新たな設備の導入を進めていきます。

昨年のCSR報告書で、私は当社の事業を「産業の静脈だけでなく、動脈の役割も同時に担っている」とお伝えしました。「産業の動脈」と表現したのは、製品化にチャレンジして再びマテリアル利用する、あるいはサーマル回収して社会に還元するという意味です。今回の中計でも定性目標に「循環資源である廃棄物の付加価値化、製品化を推進し、そのための技術開発を積極的に行う」ことを掲げており、2020年夏より製品化のためのプラントを稼働するなど、「産業の動脈」としての機能をさらに強化していく予定です。

しかし、こうした目標を成し遂げるためには、相応の時間が必要であることも否めません。その時間を少しでも短縮するために同じ目的を共有できるパートナーが必要だと考えています。M&Aによる異業種とのコラボレーションはこれまでも積極的に行ってきましたが、今後はタケエイにない部分を補完してくれる技術や社会的な役割を所有されている企業との協業を加速し、高いシナジー効果を追求していきたいと思います。

例えば、2020年4月には市原グリーン電力(株)の子会社化を実施し、目的達成への第一歩を着実に踏み出しています。このM&Aは、当社の再生可能エネルギー事業強化のために欠かせないものでした。同社は、首都圏で発生する住宅の建築や解体に伴う廃材や木くずを受け入れてきた会社です。今回の子会社化で、

タケエイの燃料(木質チップ)を供給する機能と、市原グリーン電力(株)の燃料を燃やして発電する機能を併せ持つことになり、当社グループ内においてワンストップで効率的な発電が可能となりました。安定的な電力供給と同時に、バイオマス発電による環境負荷の低減が実現できると考えています。(詳細は8ページ参照)

また2020年5月には、(株)タケエイグリーンリサイクルによる(株)横須賀バイオマスエナジーの吸収合併も行いました。この吸収合併によって、相互の事業を補完し経営資源をより効率的に運用することが可能になりました。(詳細は15~18ページをご覧ください。)

当社グループで手がける 再生可能エネルギー事業の意義

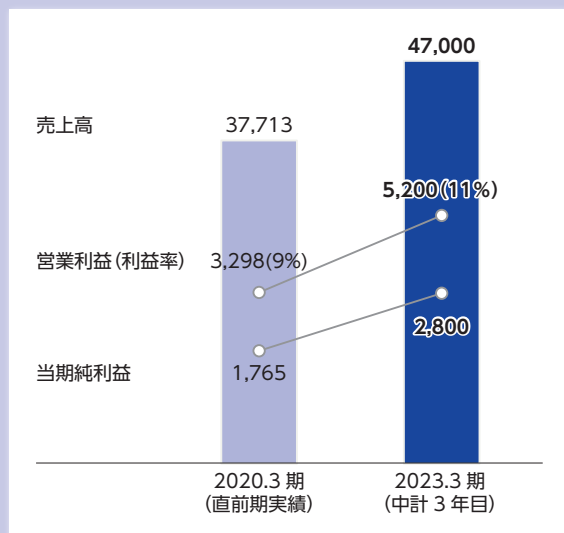
すでに4か所で稼働している当社グループのバイオマス発電事業は「電力の地産地消」を体現しており、社会の持続可能性にとって意義深いものです。発電規模は6~7MWと小さいものの、主に間伐材などの未利用材を燃料化して地元で消費する電力を供給しています。未利用材を利用することで、これまで人の手が届いていなかった森林でも間伐が行われるようになり、地元の森林の保全や林業の活性化に貢献していると自負しております。

2023 to the FUTURE

～国家の環境保全に資する総合環境企業へ～

対象期間 2021年3月期～2023年3月期の3ケ年

定量目標



(百万円未満切捨て、%表示は小数点以下四捨五入)

定性目標

5年後、10年後の将来像を具体化するための成長戦略等

- ① 再生可能エネルギー事業を通じて一層の環境への貢献、競争力の強化を図る
- ② 社会問題として深刻化している廃プラスチック等のリサイクルについてグループの対応力強化を図る
- ③ M&A、協業化により「総合環境企業」としての事業領域を拡充する
- ④ 循環資源である廃棄物の付加価値化、製品化を推進し、そのための技術開発を積極的に行う
- ⑤ 自然災害による災害廃棄物の処理やタケエイSDGs推進財団の活動等を通じて社会貢献する
- ⑥ 環境企業としての創業精神を継承し、グループ人財を活性化する



さらに2019年度より、今までは需要がなかった間伐後に残る枝葉や切り株なども燃料として買い取るという取り組みも始めています。2020年5月に新たに設立した(株)タケエイ林業は、バイオマス発電に必要な燃料の安定調達を目的としていますが、これまで需要がなかった枝葉や切り株等の受け皿としての機能も担っています。(詳細は8ページをご覧ください。)

発電した電力については、今後は地元の生協や小中学校などでグリーンな電力として使用していただくほか、災害時の病院などで緊急電力として使っていただくなど、補完的な役割も担えると思っています。

また、最近では「脱炭素」を宣言したり、「RE100」などの認証を取得する企業も増えてきていますので、バイオマス発電を中心とした再生可能エネルギー戦略の中で企業の脱炭素ニーズにもしっかり対応し、社会全体の環境課題解決に貢献していきたいと思えます。

「タケエイSDGs推進財団」設立の 目的と活動内容

新中計にも記されている「タケエイSDGs推進財団」は、当社が事業を通じてSDGsの目標達成に貢献するために、会社としての取り組みを一層強化することを目的として2020年5月1日に設立しました。当社の社会的位置付けの高まりとともに、その責任も増していることはすでにお話ししたとおりですが、むしろ我々から積極的に社会に貢献できることを模索し「自分たちにできることは何か」を追求するためにこの財団を活用していきたいと考えています。

設立に先立って新型コロナウイルス感染症という大きな社会問題が発生し、マスクの入手に困っている人が多いという状況が目前で起こったことから、この財団の仕事始めとして当社とかわりの深い地域にマスクを寄付するという活動からスタートしました。今後は、小中学生や地域住民の方々が使用するバスの待機施設用としての建物を寄贈することも予定しております。

また2019年度は、SDGsの社内浸透にも力を入れました。社内報で積極的にSDGsの情報発信を行うなど、担当部署の従業員自らさまざまなアイデアを出してくれたおかげで、SDGsの知識はほとんどの従業員に行き渡ったと考えています。今後は、実

際のアクションにつなげていくため、例えば従業員がボランティアなどで社会に貢献した場合、その貢献度を金銭換算してタケエイSDGs推進財団へ同額を拠出することも計画しています。

中期経営計画やSDGsの目標達成に 欠かせない「人財」育成

私の願いは、タケエイを「この会社に入って良かった」と思える、家族や友人に自慢できるような会社にする事です。そして、「社会に貢献している会社」と認められることはもちろんですが、「働いている人たちが素晴らしい」と称賛される会社にする事が、社長としての重要なミッションと認識しています。私は折に触れて「品質にこだわろう」と言い続けているのですが、そこには製品やサービスの品質にとどまらず、「人財」も高めていきたいという想いを込めています。一人でも多くの従業員に同じ想いを共有してもらうことができれば、周囲の従業員も触発され、会社全体で人を大切にする企業風土が醸成できるはずですので、これからも「人財」にこだわり続けたいと思いますし、人事制度も同じ観点で改革していきたいと考えています。

2019年の秋に上陸した台風15号、19号、21号は、日本中で大きな被害をもたらしました。タケエイグループは、暴風により甚大な被害を受けた千葉県をはじめ、浸水被害が発生した神奈川、栃木、長野県などでも災害廃棄物の処理に携わり、地域の皆さまからたくさんの感謝の声をいただきました。これは、社会における当社の存在価値が高まったことを従業員一人ひとりが実感できた出来事であったと思います。

ステークホルダーの皆さまへ

私たちタケエイは、2019年度決算こそ新型コロナウイルス感染症の影響を軽微にとどめることができましたが、2020年以降は、日本経済の減速に加えて東京五輪の延期など、将来に向けていくつもの不安要素が立ちはだかっています。しかし、今後とも「総合環境企業」として地域社会に貢献するという理念を貫き、資源循環型社会のけん引役を努めてまいりますので、ステークホルダーの皆さまにはこれまでと変わらぬご支援をお願いいたします。

事業トピックス

市原グリーン電力(株)の子会社化および循環資源(株)の持分法適用会社化

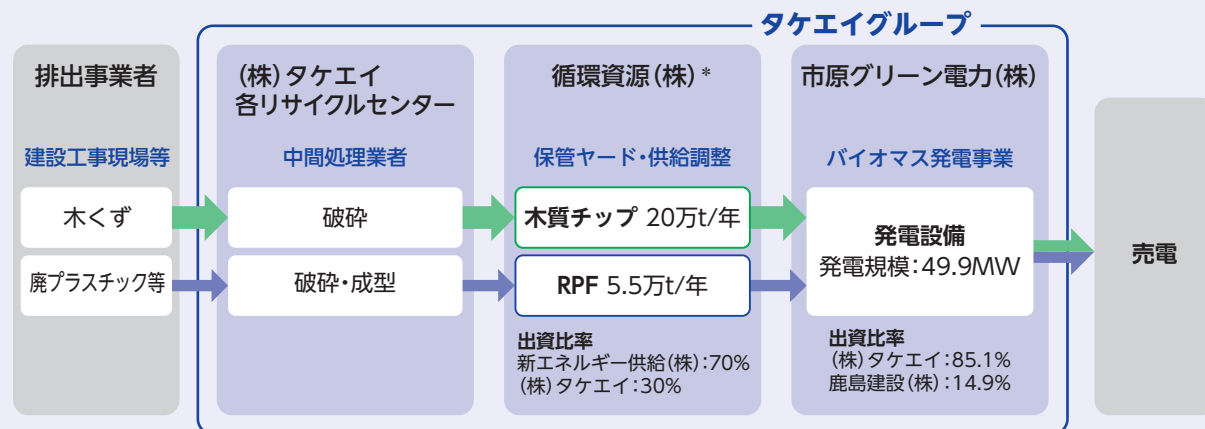
(株)タケエイは2020年4月、近年注力している再生可能エネルギー事業のさらなる拡充を目指し、首都圏最大級を誇る木質バイオマス発電事業者である市原グリーン電力(株)を子会社化するとともに、同社に発電燃料を供給する循環資源(株)を持分法適用会社化しました。

当社グループの既存の木質バイオマス発電所が山林由来の未利用材を多く活用するのに対し、市原グリーン電力(株)は、首都圏の建設現場から排出される廃木材や、工場等から排出される紙・廃プラスチック類を原料とする産業廃棄物由来の燃料を活用しています。また循環資源(株)では、燃料となる各中間処理工場で生産された木チップやRPF*を一時的に保管し、市原グリーン電力(株)へ安定的に供給する役割を担っています。

当社はこれまで市原グリーン電力(株)および循環資源(株)への木質チップ・RPFの搬出は行っていましたが、それぞれの子会社化および持分法適用会社化により、首都圏で発生する廃木材等について当社グループ内での処理および大規模な発電が可能になりました。

当社では引き続き、再生可能エネルギー事業のさらなる拡充を図ってまいります。

*RPF…Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料(出典：一般社団法人日本RPF工業会)



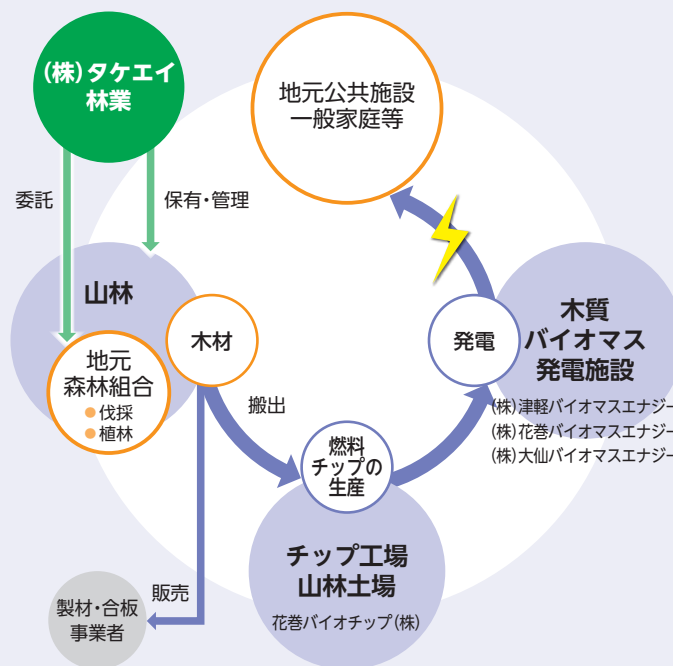
*同社が保管・供給する木質チップは、他社からの搬入分も含みます。

『(株)タケエイ林業』を設立

タケエイグループは2013年3月より木質バイオマス発電事業に参入し、2020年3月末時点で青森県、岩手県、秋田県、神奈川県等の4か所で発電所を稼働しています。

2020年5月、これらの木質バイオマス発電に必要な発電用燃料材の安定調達を目的として(株)タケエイ林業を設立しました。同社が林業者として森林の保有・管理等を行うことで、タケエイグループが燃料材の調達から木質チップの供給、発電までを一貫して可能とする仕組みを構築します。さらに、山林における伐採や伐採後の植林を各地域の森林組合に委託するなど、地元の企業・団体の皆さまと協業しながら各地の雇用拡大を図ります。

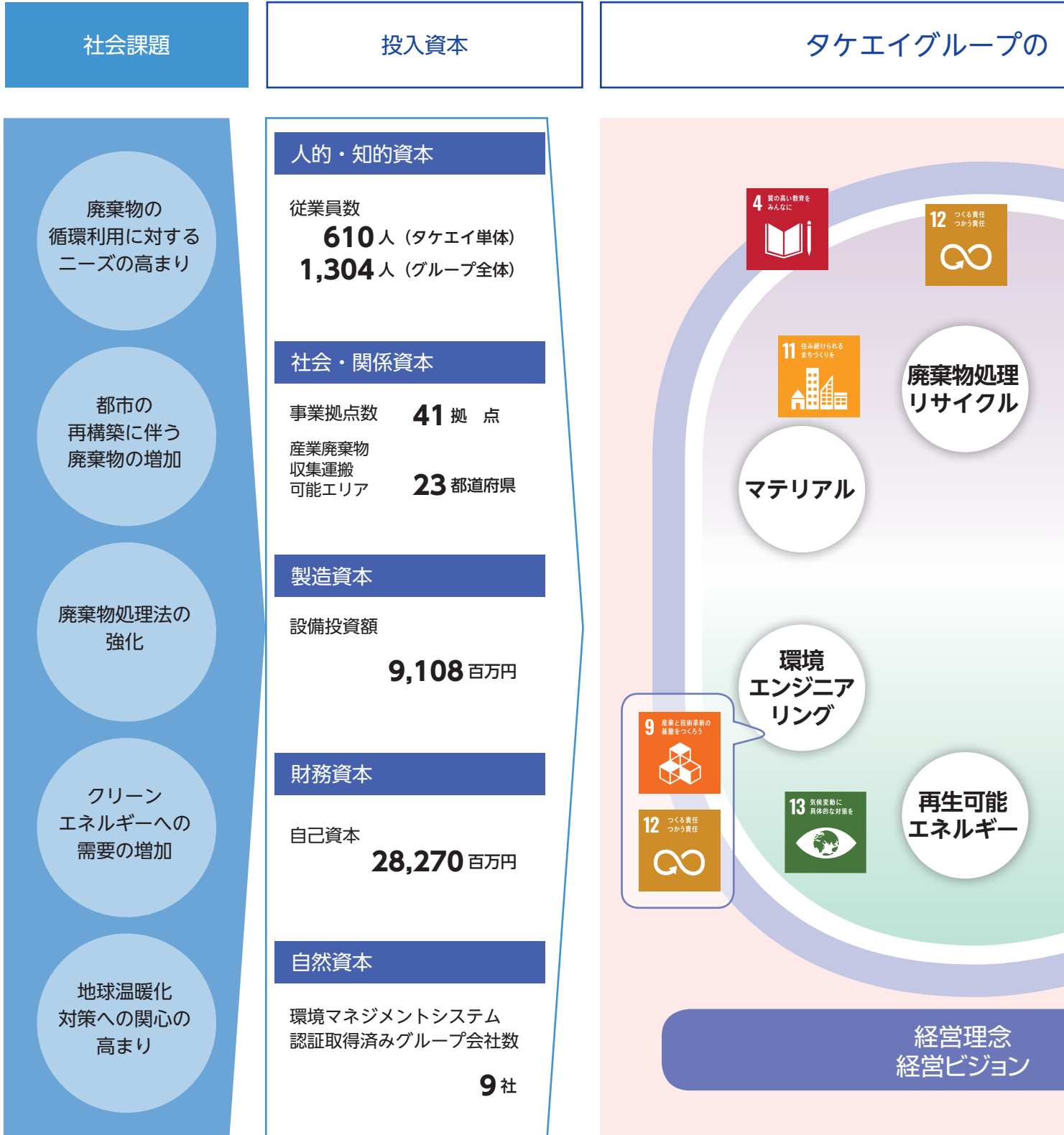
また、間伐材を発電燃料として使うだけでなく同社を通じて自ら植林等を行い、資源を使用するだけでなく循環させることで、当社の経営理念でもある「資源循環型社会への貢献」を実現していきます。



タケエイグループの価値向上プロセス

タケエイグループは、廃棄物処理における総合的なソリューションサービスの提供や、地産地消型の木質バイオマス発電事業を通じて、社会課題の解決に取り組んでいます。

2020年5月には「(株)タケエイ林業^{*1}」や「(一財)タケエイSDGs推進財団^{*2}」を設立するなど、地域社会との協同も含め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



※1 同社は、木質バイオマス発電に必要な発電用燃料材の安定確保に向けて設立されました。詳細はP.8をご覧ください。
 ※2 同財団は、持続可能な開発目標(SDGs)の達成への寄与を目的として設立されました。詳細はP.20をご覧ください。

事業

アウトプット

ステークホルダー / アウトカム

17 パートナシップで
目標を達成しよう



14 海の豊かさを
守ろう



ランドフィル
(最終処分)

環境
コンサル
ティング

11 住み続けられる
まちづくりを



3 すべての人に
健康と福祉を



14 海の豊かさを
守ろう



2020.3 期
(直前期実績)
連結ベース

売上高
37,713 百万円

営業利益
3,298 百万円

営業利益率
9%

親会社株主に
帰属する
当期純利益
1,765 百万円

お客さま

- さまざまなニーズを解決

地域社会

- 地域課題の解決
- 安全な生活環境の確保

株主・金融機関

- 経営の安定
- 成長と利益の還元

行政機関

- 官民連携による地域社会への貢献

従業員

- 安全で働きやすく
働きがいのある環境の提供

総合環境企業



持続可能な未来に向けて

再資源化 ソリューション

廃棄物の収集運搬



中間処理

廃棄物が生まれ変わる!!

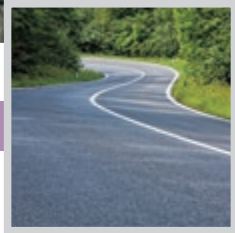
タケエグループが収集した廃棄物は、中間処理を経て約88%を再資源化し、再びリサイクル品として活かされています。





コンクリート・碎石・砂品等

土木資材



金属類
製鉄副資材(エコ・フォーム)

鉄



石膏粉

石膏ボード



マテリアル
リサイクル



サーマル
リサイクル



紙類

ダンボール等



塩化ビニル・プラスチック類

塩ビ製品



廃プラスチック・可燃物・不燃物

セメント原料
セメント燃料



木質チップ

堆肥
エネルギー



廃プラスチック・可燃物

熱利用
エネルギー



再資源化ソリューション



産業廃棄物処理・リサイクル事業

リサイクル工場に運ばれた産業廃棄物は、人の手や機械・重機で選別し、異物を取り除きます。その後、品目ごとにリサイクルに適した品質・ロットに整え、リサイクル品となります。



収集運搬量
693,541t



他社工場

建設現場や工場などから排出される産業廃棄物を収集し、当社グループのリサイクル工場まで運搬します。

681,367t

中間処理



廃棄物発生場所



廃プラスチック類
(RPF*)



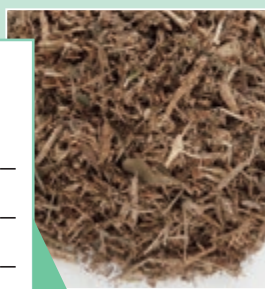
地域の未利用材等の利用

- 津軽 バイオマスエナジー
- 花巻 バイオマスエナジー
- 大仙 バイオマスエナジー

首都圏および近郊の木質資源利用

- タケエイグリーン リサイクル
- 横須賀バイオマス発電所

木質チップ



投入量

未利用材
199,966t

RPF*
79t

木質バイオマス
発電所



10mm~50mmの木質チップは、バイオマス発電所に運ばれ、バイオマス発電の燃料となりエネルギーに生まれ変わります。

再生可能エネルギー事業

*RPF...Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料(出典:一般社団法人日本RPF工業会)



建設現場等



他社最終処分場

最終処分量
(当社グループの
リサイクル工場から発生)
79,733t

リサイクル量
601,634t

マテリアルリサイクル

サーマルリサイクル

タケエグループ最終処分場

最終処分量
75,373t

再資源化に適さない廃棄物や残渣物は、最終処分場で埋立処分します。当社グループの最終処分場では、環境負荷を徹底的に排除した管理・運営を行っています。



土木資材
[再生砕石(RC-40、砂品等)]

生産量 330,185t



破砕機で一定のサイズに砕かれたコンクリートや、機械選別でサイズを揃えた砕石・砂品などは、路盤材や埋め戻し材として生まれ変わります。

鉄・非鉄原料

生産量 27,007t



鉄骨やパイプ等の金属は切断等の処理がされ、種類別に分けられます。製鉄メーカーなどで原材料として利用され、再び鉄・非鉄製品となります。

石膏ボード原料、
セメント系固化工材原料

生産量 65,099t



石膏ボードは特殊な処理によって石膏粉と紙に分けられます。石膏粉は再び石膏ボードとして生まれ変わり、建材として使用されます。

製紙原料

生産量 6,778t



ダンボールや石膏ボードの紙の部分は圧縮処理され、製紙メーカーで原材料として利用され、再びダンボール等の紙製品となります。

再生プラスチック原料

生産量 4,430t



塩ビ管やタイルカーペット等の廃材は、破砕・圧縮などの処理が行われます。塩ビ管などのプラスチック製品の原材料や、燃料として利用されます。

製鉄副資材(エコ・フォーム)

生産量 5,714t



廃棄物処理の際に発生する粉じん(ホコリ)は、ほかの廃棄物と混ぜて固め、エコ・フォームとなります。製鉄工程において転炉内の泡立ちを防止するための添加材(フォーミング抑制材)として利用されます。

堆肥原料等

バイオマス発電燃料

生産量 18,436t / 57,772t



破砕機で一定のサイズに砕かれた廃木材等は、発電用の燃料として利用されます。剪定枝などは破砕後に熟成・発酵させ、堆肥として使用されます。

セメント原料

セメント燃料

生産量 10,541t / 15,050t



廃プラスチックや可燃物・不燃物の中で品質基準を満たしたものは、破砕・圧縮等の処理が行われ、セメント製造工程の原料・燃料として利用されます。

廃棄物発電・
サーマルリサイクル燃料

生産量 60,622t



混合廃棄物から機械で選別された可燃物(紙・廃プラスチック等)は、圧縮処理を行い、燃料として利用されています。

熱の利用



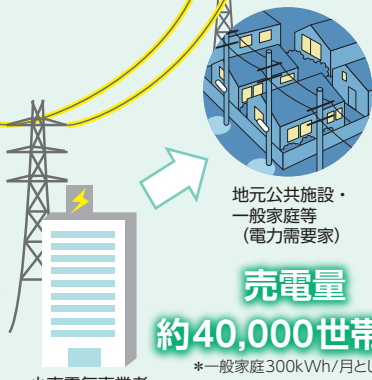
高糖度トマト
収穫量
15.3t

農業

発電量

144,220MWh

電気の利用



売電量

約40,000世帯分*

*一般家庭300kWh/月として
試算した場合

小売電気事業者

地元公共施設・
一般家庭等
(電力需要家)

特集 グループシナジーの最前線 株式会社タケエイグリーンリサイクル 横須賀バイオマス発電所

2019年10月7日、タケエイグループで先行稼働する3か所の木質バイオマス発電所に続き、4か所目となる「横須賀バイオマス発電所」が竣工しました。横須賀市をはじめとする首都圏近郊から排出される伐採木・剪定枝や、建設現場で発生する廃木材などを主な燃料とする「都市型バイオマス発電事業」が始まり、2020年5月1日には、経営資源の効率的な運用に向けて（株）タケエイグリーンリサイクルと合併しました。これにより、富士吉田工場および横須賀バイオマス発電所の双方で木材の受け入れから搬出までをコントロールしあうことが可能となり、木質バイオマス発電事業の課題でもある発電燃料の効率的な供給を達成しました。また、一般的に焼却処分されることの多い細かい木くずも堆肥原料として活用することで、木の100%リサイクルを実現しています。今後も、総合環境企業としてグループのシナジー効果を発揮し、対象地域の皆さまとの共生を推進してまいります。

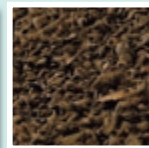
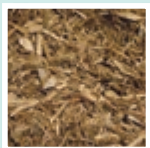
発電出力 6,950kW

燃料使用量 燃料チップ 約91,000t/年

中間処理能力 破碎 最大75,950t/年

CO₂排出量削減効果 約23,000t-CO₂/年

横須賀バイオマス発電所



燃料となる木質チップ
10mm~50mm

(株)タケエイグリーンリサイクル横須賀バイオマス発電所では、伐採された根株・丸太、廃木材等を破碎して10mm~50mmのサイズに揃え、バイオマス発電の燃料にします。同発電所は、燃料製造から発電までを一貫して行うことができる国内でも数少ない木質バイオマス発電施設です。なお、破碎の過程で発生する10mm以下の木質チップは富士吉田工場へ運び、堆肥原料として活用します。



木質チップ
10mm以下

発電した電気は
地元へ供給

関東甲信

横須賀市

地元
横須賀市
周辺
三浦市
葉山町
鎌倉市

根株

丸太

剪定枝

枝葉

草類

10mm~50mmの
燃料となる木質チップは
横須賀バイオマス発電所へ

樹木の剪定枝等は破碎して10mm以下のサイズに揃え、堆肥原料とします。また、バイオマス発電燃料を製造する過程で発生する細かい木くずも堆肥原料として活用します。



木質チップ
10mm以下

大手ホームセンター
排出自治体へ

富士吉田工場



(株)タケエイグリーンリサイクル富士吉田工場では、関東甲信で排出された剪定枝や生木を収集し、木質チップに加工することで、バイオマス発電燃料や有機肥料等を製造しています。木質資源の再生利用の詳細は「タケエイグループ CSR 報告書 2019」でご紹介しています。



10mm以下の木質チップは自然環境の中で熟成発酵させます。また、酪農家に敷料として納品し、牛糞と混ぜた木質チップを再び回収し、堆肥原料とします。



熟成を経て完成した堆肥は、地元のホームセンターや農協・自治体等へ供給しています。

特集 グループシナジーの最前線
株式会社タケエイグリーンリサイクル

燃料の安定供給、効率の良い燃焼
理想的なバイオマス発電を実現した
横須賀バイオマス発電所



燃料棟

木質チップは供給フィーダーに入れられ、量を調整しながら発電施設へと供給されます。

受け入れ

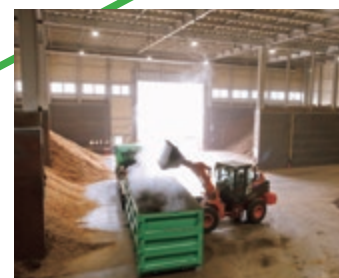
破碎

ふるい分け

供給



搬入された根株・丸太等は破碎機で破碎したあと、ふるいで10mm~50mmのサイズに揃えて木質チップにします。



供給便の帰りの便で10mm以下の木質チップを富士吉田工場へ。富士吉田工場では堆肥の原料になります。



富士吉田工場で製造された木質チップ等は横須賀バイオマス発電所の燃料棟に搬入されます。また、横須賀市や周辺の三浦市・葉山町・鎌倉市等から集められた廃木材や根株・丸太は、搬入後に燃料として使用します。



横須賀のボイラータイプ 再熱利用について

木質チップの燃焼時に発生する空気を再びボイラー内に戻し、ボイラー内を高温に保つことで、燃焼効率を上げています。



供給フィーダーから供給された木質チップは発電施設へと搬送され、ボイラーで燃やされます。

発電施設

搬送

燃焼

発電

売電

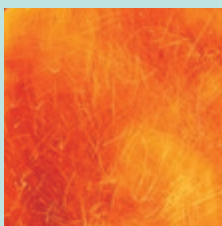
発電した電気は、小売電気事業者等に売電します。



発生した蒸気はタービンを回転させた後、冷却塔で冷やされ再利用されます。

横須賀のボイラータイプ バブリング流動層ボイラー

横須賀バイオマス発電所ではバブリング流動ボイラーを採用しています。ボイラー内の砂層が流動することで木質チップを乾燥させることができ、水分の多い木質チップも高温を保ったまま安定して燃焼できることが特徴です。



左：ボイラーで木質チップを燃焼させた際に発生する蒸気でタービンを回転させ、発電します。
右：管理室ではモニターで各所の様子を確認することができ、安定稼働に向けた管理を行っています。

タケエイグループのCSR

経営理念

資源循環型社会への貢献を目指す

総合環境企業として、自然との調和・地域住民との共生を基調とし、
多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を推進することによって
資源環境型社会へ貢献する。

<http://www.takeei.co.jp/takeei03.html>

経営ビジョン

環境関連事業の拡充

廃棄物の3R (Reduce 減らす / Reuse 再利用する / Recycle 再資源化する) および適正処理を推進するため廃棄物処理・リサイクル事業へ一層注力するとともに、環境保全に資するコンサルティング事業、エンジニアリング事業を拡充する。

再生可能エネルギー事業の拡充

地元産の燃料を使って生み出したクリーンなエネルギーを供給する発電・電力小売事業を核とし、自社で保有する森林の保全および燃料チップの自己調達を目指す林業経営、発電に伴って生じる余熱の農林・水産関連事業等への応用などにより、再生可能エネルギー事業を拡充する。

環境保全を通じた社会貢献

豊かな大地・森・海からなるOnly One Earth (かけがえのない地球) を守り次代に引き継ぐため、資源循環や気候変動などの社会課題の解決策を講じ、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に寄与する。

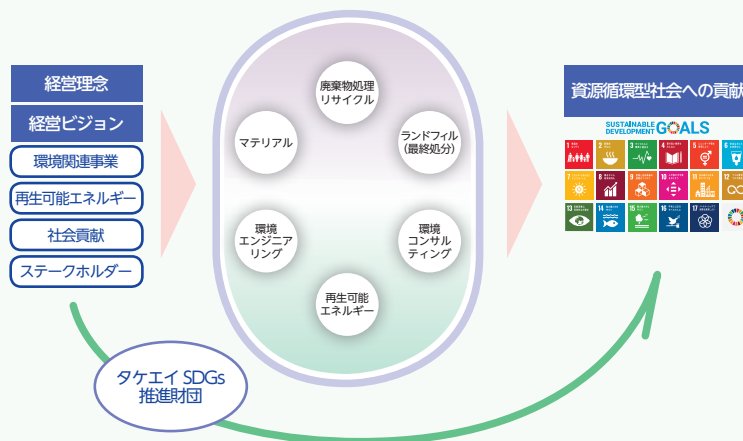
ステークホルダーとの関係強化

「四方よし(売り手・買い手・世間・環境)」を目標とし、株主さま・お客さま・従業員はもちろん、近隣住民・地域社会や行政機関、金融機関など当社を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションを促進し、バランスの取れた関係を強化する。

CSR推進体制

タケエイグループは、経営理念である「資源循環型社会への貢献を目指す」ことが当社グループのCSR活動の根幹であるととらえています。経営理念に基づいた環境関連事業経営・再生可能エネルギー事業経営を行うことで、CSR活動、ひいてはSDGsの達成につなげていきます。

また、2020年5月に設立した一般財団法人タケエイSDGs推進財団を通じた環境保全活動等も推進していきます。



ステークホルダーとのかかわり

タケエイグループの事業は、お客さま、株主、従業員、行政機関、金融機関および地域住民の方々等、多くのステークホルダーとのかかわりの中で成り立っています。

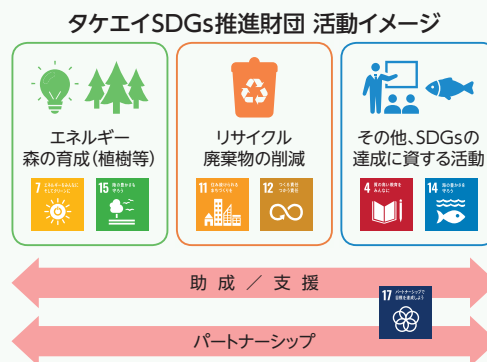
事業活動における法令遵守、雇用の創出、安全確保、環境保全、地域社会への貢献等、ステークホルダーの皆さまからの期待に応え、信頼関係を築くことが重要と考えています。今後もさまざまな形で対話を深め、その評価やご意見を経営に反映すべく取り組みを重ねていきます。



タケエイSDGs推進財団の設立

(株)タケエイは、2020年5月に一般財団法人タケエイSDGs推進財団を設立しました。当社グループの事業活動において環境負荷低減に寄与することで得た利益を財団の活動資金として拠出することによって、グループ一体となったCSR活動を推進していきます。

当面は、グループ各社の拠点における近隣の自治体、地域社会における環境保全活動や地域貢献活動を行います。



コーポレート・ガバナンス

タケエイグループでは、社会から信頼される企業であり続けるために、健全性・透明性のある経営体制を整備・運用するとともに、コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

基本的な考え方

タケエイグループで手掛ける事業は、お客さま、株主、従業員、金融機関、さらには事業所周辺の行政および地域住民の方々など、当社グループを取り巻くステークホルダーとの信頼関係のもとに成立するものととらえています。したがって当社グループでは、健全な経営の推進と社会的信頼に十分に因應するために、コーポレート・ガバナンスの着実な実施を重要な経営課題として位置付け、経営環境の変化に迅速に対応する経営体制の構築に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制

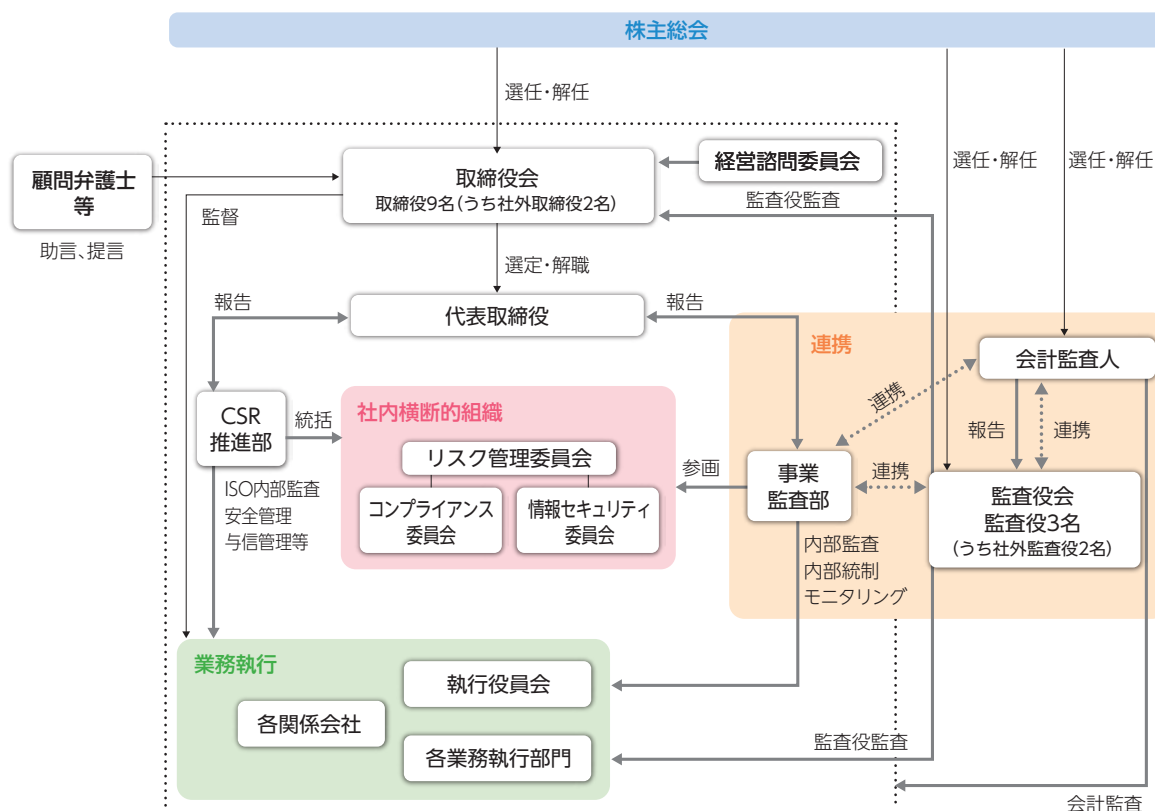
(株)タケエイは監査役会設置会社として株主総会のほかに、取締役会、監査役会、会計監査人を会社の機関として設置しています。

取締役会

(株)タケエイの取締役会は社外取締役2名を含む9名の取締役で構成されており定例の取締役会を毎月1回、臨時の取締役会を必要に応じて開催し、取締役会規程に基づき経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、社外監査役2名を含む3名の監査役も取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況について、法令・定款に違反していないことのチェックを行うとともに、必要に応じて意見を述べています。常勤監査役は取締役会以外の重要な会議にも出席し、取締役などへの意見聴取や資料の閲覧、主要な事業所への往査等を通じて取締役の業務執行の適法性・妥当性を監査しています。

コーポレート・ガバナンス体制

2020年6月末現在



経営諮問委員会

取締役会の任意の諮問機関として過半数が社外役員である経営諮問委員会を設置し、取締役候補者の選任や役員報酬の評価等について適切な関与と助言を受け、コーポレート・ガバナンス体制の充実を図っています。

リスク管理体制

(株)タケエイでは事業運営上のさまざまなリスクについての統轄部署として、CSR推進部を設置しています。CSR推進部ではISO内部監査、安全管理、与信管理などを行い、タケエイグループの運営に関する全社的・統括的なリスクの顕在化の未然防止、リスク要因の特定やその改善の推進を図っています。

リスク管理委員会

タケエイグループでは経営を取り巻くリスクに対し、的確な管理が可能となるように、取締役会直属のリスク管理委員会を設置しています。リスク管理委員会は四半期に一度委員会を開催し、リスク管理に関する取り組みの方針・方向性の検討、協議・承認を行っています。これにより事業の継続・安定的発展を確保していきます。

情報セキュリティ委員会

IT技術の進化により高度にネットワーク化された現代において、情報の安全は経営上の重要な課題です。タケエイグループでは業務を行う上で接するお客さまや取引先、従業員などの個人情報の漏洩や情報資産の破損などを防止するため、情報セキュリティ基本方針に基づき、リスク管理委員会の下部組織として、情報セキュリティ委員会を設置しています。これからも情報セキュリティ対策の適切な実施と継続的改善を推進する体制を整え、情報セキュリティに関する事故や問題の発生状況について常に調査し、企業活動の発展を目指します。

コンプライアンス委員会

タケエイグループでは社内横断的な視点からコンプライアンスを推進するため、リスク管理委員会の下部組織としてコンプライアンス委員会を設置し、法令違反行為の発生の有無を常に調査し、その発生を確認した場合には速やかにリスク管理委員会に報告するものとしています。また、従業員に対して法令遵守の必要性について継続的に周知を図るなど、グループ各社を含めた法令遵守の徹底に努めています。

内部通報制度

法令違反行為などコンプライアンス違反の早期発見と是正、予防を図るため、従業員がコンプライアンスに関する事項を連絡相談することのできる窓口「コンプライアンス・ヘルプライン(内部通報制度)」を設置し、電話やメールなどによる相談を受け付けています。

内部監査部署

タケエイグループでは、内部監査部署として社長直轄組織である事業監査部を設けています。監査計画に基づき定期的に各部署、グループ各社に対し監査を実施し、内部統制システムが有効に機能していることを確認しています。

インサイダー取引規制研修の実施

(株)タケエイでは、株主・投資家・投資機関からの信用を維持し健全な株式市場の形成に貢献するため、コンプライアンス規程でインサイダー取引の禁止を定めるとともに、インサイダー取引にかかわる研修を継続して行っています。

2019年7月から10月にかけては、知識の欠如による自覚のないインサイダー取引を防止すべく、当社グループ全体を対象としたインサイダー取引規制研修を実施しました。確認テストの分析結果をもとに継続して研修を行い、引き続きインサイダー取引の未然防止を徹底していきます。

環境とのかかわり

タケエグループはタケエグループ環境基本方針を掲げ、環境活動に積極的に取り組んでいます。
また、グループ各社でも環境目標を設定し、継続的な改善に向けた取り組みを行っています。

環境基本方針

タケエグループ環境基本方針

タケエグループは、環境に携わる企業として、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、次の4つを活動テーマに掲げ積極的に取り組みます。

1. 資源循環型社会の実現に貢献します。
2. 低炭素社会の実現に貢献します。
3. 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。
4. 環境活動の推進体制を充実します。

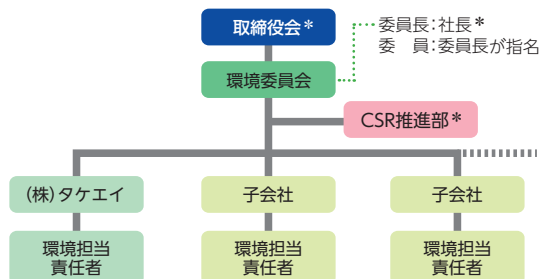
タケエグループ環境基本方針は、ホームページで全文を公開しています。

<http://www.takeei.co.jp/environment01.html>

環境推進体制

タケエグループでは、地球環境の保全に配慮した企業活動に取り組むため、環境推進体制を整備しています。具体的にはタケエグループ全体で環境活動を推進するため、(株)タケエの代表取締役社長を委員長として環境情報の共有や協議を行う場である「環境委員会」を設置し、グループ各社で「環境担当責任者」を選任しています。

タケエグループ環境推進体制



* (株)タケエ

環境マネジメントシステムの運用

タケエグループでは、環境マネジメントの国際規格であるISO14001や、環境省が策定したマネジメントシステムであるエコアクション21の認証を取得しています。

2019年に行われた(株)タケエのISO14001における外部審査では不適合はありませんでしたが、軽微な改善指摘事項が1件ありました。エコアクション21における外部審査では不適合はありませんでした。

当社の事業に関連する法規制・条例等については、引き続き遵守を徹底するとともに、運用が適正に行われているかの確認を行っています。

環境マネジメントシステム認証の取得状況

環境認証の種類	取得組織	取得(登録)年月
ISO14001	(株)タケエ*1	2001年2月
	(株)北陸環境サービス*2	2004年7月
	(株)信州タケエ	2001年12月
	富士車輛(株)*3	2001年3月
	(株)タケエグリーンリサイクル*4	2007年6月
エコアクション21	イコールゼロ(株)	2001年3月
	(株)タケエ東京リサイクルセンター	2007年9月
	(株)池田商店	2007年8月
	(株)タケエメタル	2017年4月
	(株)ギプロ	2017年10月

*1 産業廃棄物の処理業務における営業部門、収集運搬部門、最終処分部門、管理部門、中間処理部門(川崎RC/四街道RC)

*2 本社および平栗工場

*3 本社

*4 本社、富士ヶ濱工場

環境目標

タケエグループでは、環境基本方針に基づき、グループ各社が事業活動における環境目標を策定しています。この結果について年度末に分析・評価をし、次年度以降の活動の改善に活かしています。

事業活動に伴う環境負荷

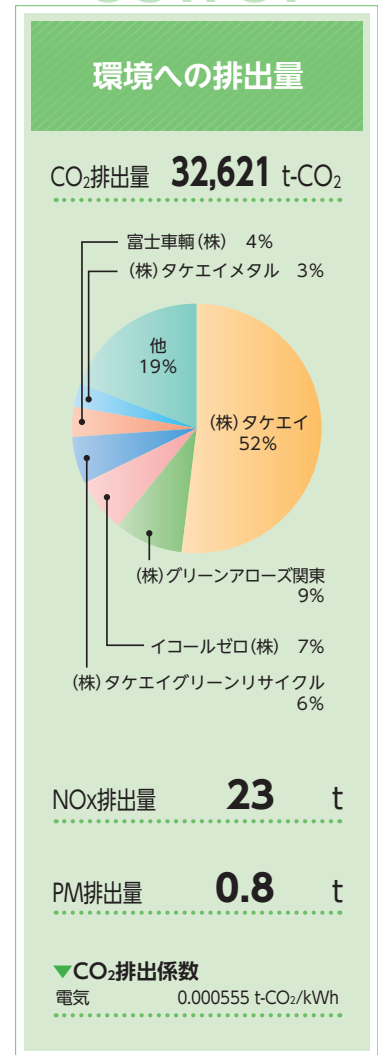
タケエイグループでは、廃棄物処理・リサイクル事業や再生可能エネルギー事業といった、事業活動全体におけるエネルギーの使用量および環境負荷を適切に把握し、環境負荷の低減に向けた取り組みに活かしています。

INPUT

事業活動に伴うエネルギー投入量	
電気	23,515 MWh
軽油	6,200 kℓ
ガソリン	445 kℓ
都市ガス	824 千m ³
LPG	41 千m ³
灯油	36 kℓ
A重油	117 kℓ
アセチレン	197 kg



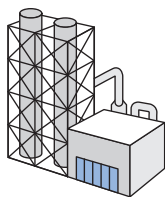
OUTPUT



*収集運搬・中間処理(リサイクル)・最終処分およびバイオマス発電の詳細については、P13~14をご覧ください。

FIT発電

バイオマス発電



発電量
161,905MWh

タケエイグループでは、グループ各社の電気使用量を上回る量のFIT電気を創出しています。また環境負荷低減のため、2018年4月より順次、グループ各社の電気をFIT電気に切り替えています。

エコ・ファーストの取り組み

「エコ・ファースト」とは、自らの環境保全に関する取り組みを企業が環境大臣に約束し、

それを受けて環境大臣が環境先進企業であることを認定する制度です。

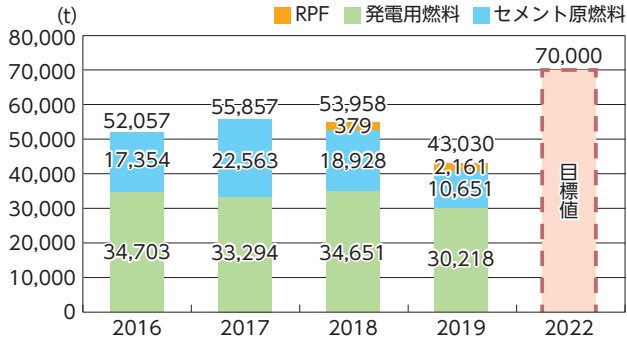
タケエイグループは、今後も事業活動を通じて「エコ・ファーストの約束」を推進していきます。

「エコ・ファーストの約束」の達成状況

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

タケエイグループにおけるリサイクル量 **601,634t**

発電燃料およびセメント原燃料の供給量推移

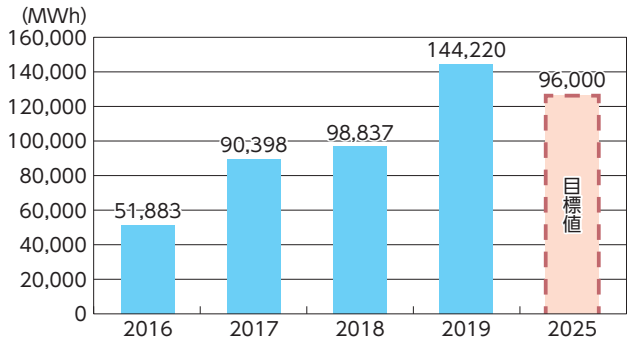


2 低炭素社会の実現に貢献します。

(株)タケエイにおける低公害車・低燃費車の保有台数

低公害車 **262台** 低燃費車 **181台**

再生可能エネルギーの発電量(売電量)推移



3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

現在稼働中のバイオマス発電事業 **4か所**

タケエイグループにおける環境活動の実施状況 **P31~32**をご覧ください。

タケエイグループにおける施設見学の実施件数 **1,642件**(延べ4,395名)

ECO FIRST **エコ・ファーストの約束 (更新書)**
 ~環境先進企業としての地球環境保全の取り組み~
 平成 29 年 10 月 31 日

環境大臣 中川 雅治 殿
 株式会社タケエイ 代表取締役社長 山口 仁司

「総合環境企業」を目指すタケエイグループは、企業と社会がともに持続的成長が可能な未来を実現すべく、以下の取り組みを進めてまいります。

1 資源循環型社会の実現に貢献します。

- タケエイグループは事業領域と事業地域を拡大することで、廃棄物の処理に関するお客さまのさまざまな課題について、ソリューションサービスを提供してまいります。
- 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、「建設廃棄物処理・リサイクル事業」の対応力強化に努めます。特に、東京・神奈川・千葉における3つのリサイクルセンターを有機的かつ一体的に運用することで、都市の再構築で排出が想定される大量の建設廃棄物の域内処理およびリサイクルに貢献してまいります。
- グループ全体で廃棄物の資源循環的利用を推進することで、循環型社会の促進に貢献します。特に廃棄物発電を行っている施設およびセントパーク等へ、発電燃料やセメント原燃料等となる廃棄物を供給し、供給量について2022年までに2015年比30%増を目指します。


2 低炭素社会の実現に貢献します。

- 現在タケエイグループで取り組んでいる再生可能エネルギー事業を今後さらに強化・拡大することで、温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制とエネルギー自給率の向上に寄与します。
- 再生可能エネルギー発電量について、2025年までに2015年比5倍増を目指すことで、低炭素社会の実現に貢献してまいります。
- 廃棄物を収集運搬する車両や工場で使用する重機を導入する際には、低燃費・低公害型の車両・重機を選定する取り組みを継続してまいります。また業務員へのエコドライブの教育を徹底し、環境に優しい運転を継続して実施してまいります。

3 地域や社会に根ざした環境活動を推進します。

- 地元行政や林業従事者などと連携し、地元で生産されたエネルギー資源を地元で活用する「電気的地産地消」(スキーム)に基づくバイオマス発電事業を、2025年までに4ヶ所で開催します。
- 里山づくり活動や清掃活動など、地域住民や地元行政と連携・協働して環境活動を推進します。
- タケエイグループの取り組みを、地域住民をはじめとするステークホルダーの皆さまに広く知っていただくため、工場見学を定期的に実施します。また、子どもたちがゴミの分別の知識を学ぶことができる環境学習の場を提供します。

タケエイグループは、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



第10回「『エコとわざ』コンクール」で「タケエイ賞」を贈呈

2019年12月、エコ・ファースト認定企業45社からなるエコ・ファースト推進協議会が主催した「『エコとわざ』コンクール」の表彰式にて、タケエイ賞の表彰を行いました。

「『エコとわざ』コンクール」は、小中学生の環境意識啓発を目的としたもので、2019年度は「みんなで一緒に取り組もう 美しい地球で暮らしていくために、私たちに何ができるかな」というテーマに対し594点の応募がありました。タケエイ賞として、神奈川県の子供 佐竹優己さんが考えた「エッ!こんなことから エコなこと」を選定しました。表彰式では当社グループより賞状と記念品を贈呈しました。



第10回「『エコとわざ』コンクール」で「タケエイ賞」を贈呈

環境負荷低減活動

タケイグループは、事業活動における環境への影響を最小限に抑えることに努め、地球環境の保全並びに資源循環型社会の構築に貢献します。

収集運搬における取り組み

当社グループは車両の運行を行う際に、デジタルタコグラフ等による環境負荷の把握、積載効率の向上、エコドライブの徹底、新規車両導入時の各種環境配慮型車両(低燃費車、低排出ディーゼル車)の選択などの取り組みを通じ、環境負荷低減に努めています。

事業所における取り組み

タケイグループの各事業所では、高効率照明機器やインバータ式コンプレッサー等の省エネ機器導入、電力デマンドの管理によるエネルギー使用の平準化、低燃費型重機への入替えなどの省エネルギー対策に取り組んでいます。

例えば、当社グループ内の事業所にデマンド監視装置を設置しています。電気使用量を見える化することで、電力消費の傾向を把握することに役立ち、ピーク抑制や省エネ対策に活用しています。従業員の電気使用量に対する意識づけにもつながっています。

また(株)タケイ 四街道リサイクルセンターでは、動力を電気に変えた電動式の重機を導入し、同リサイクルセンターの保有する電動式重機は2台となりました。動力が電気となることで排気ガスとCO₂排出量の低減につながっています。



地球環境にやさしい電動式重機

オフィスにおける取り組み

タケイグループでは、オフィスにおいても環境負荷低減活動を推進しています。

当社グループではWEB会議システムを活用し、遠方からの人

の移動にかかる時間やエネルギーなどを抑制する取り組みを行っています。2019年2月には、より利便性の高いWEB会議システムを導入し、WEB会議の実施回数が増えました。また、クールビズの推進、空調設備の温度設定に関する啓発活動、照明機器のこまめな消灯などの取り組みを通して、電気使用量の低減を図っています。ペーパーレス化も推進しており、一部の会議では紙の資料は配布せずタブレット端末にて資料を確認しています。

(株)タケイ 本社においては、プラスチックごみ削減を目的として従業員へオリジナルエコバッグを配布しました。さらにペットボトルの使用を減らすため、オフィスにウォーターサーバーを2台導入しました。引き続き、気候変動やプラスチックごみの問題に対してできることから取り組んでいきます。



エコバッグを配布



社内啓発ポスターを掲示

「とうほく再生可能エネルギーシンポジウム」へ登壇

(株)大仙バイオマスエナジーは、2020年1月、経済産業省東北経済産業局が主催する「とうほく再生可能エネルギーシンポジウム」に登壇しました。

本シンポジウムは、再生可能エネルギー・水素に関する研究開発や利活用の先行事例、各種施策について情報を提供するものです。再生可能エネルギー・水素関連ビジネスに関心を持つ地域企業や自治体等の関係者128名が出席の中、同社は「地産地消バイオマス発電 ～持続可能な発電所構築に向けて～」というテーマで発表を行いました。



「とうほく再生可能エネルギーシンポジウム」に登壇
(株)大仙バイオマスエナジー

環境のために

お客さまのために

タケエイグループでは、グループ各社がそれぞれ強みを活かし、廃棄物の適正処理・リサイクルにとどまらず多様化するお客さまのニーズに対応しています。

品質管理における取り組み

(株)タケエイでは「ISO9001」の認証を取得し、品質管理を行っています。産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分といった処理業務およびその管理業務^{*1}において、PDCAサイクルによる取り組みを行うことにより、継続的な品質の向上を目指しています。



タケエイグループでは当社のほかにも、環境保全(株)^{*2}および富士車輛(株)^{*3}において同認証を取得しています。

- *1 産業廃棄物の処理業務における営業部門、収集運搬部門、最終処分部門、管理部門、中間処理部門(川崎RC/四街道RC)
- *2 本社および仙台支店(環境関連の側面についての分析、調査、試験、測定およびそれら業務に関する報告書作成および証明業務)
- *3 本社、東京支店、大阪支店、東京営業所、名古屋営業所、福岡営業所

建設現場における取り組み

(株)タケエイでは、お客さまのご要望に応じて、建設現場において廃棄物の分別作業をサポートしています。分別作業を支援するための専門チームが現場を定期的に巡回し、廃棄物の分別・保管状況を確認し、お客さまのニーズに合わせた分別方法を提案しています。



掲示物による分別方法のご案内

また、現場監督や作業員の方々に対する分別講習会を積極的に実施しています。講習会では、保管されている混合廃棄物の中からまだ分別できるものを取り分けていくような現場作業員参加型の講習もあり、廃棄物の分別知識をより高めていただけるように工夫しています。

分別作業の支援を行うことにより、お客さまの環境負荷低減に貢献し、当社グループのリサイクル工場におけるリサイクルの効率化にもつながっています。



分別講習会の様子

技術開発部の設置

(株)タケエイでは、経営理念でもある「資源循環型社会への貢献を目指す」ために、多様なニーズに対応したリサイクル技術の確立と施設の充実を進めてまいりましたが、環境負荷の低減や気候変動対策への取り組み等が社会的要請となっている今日の状況への対応力を一段と強化するため、2019年10月に「技術開発部」を新設しました。リサイクル製品のさらなる品質向上に向けたリサイクル技術の開発、新たなリサイクル事業の創出など、総合環境企業として一層の発展を目指します。

安全衛生のために

タケイグループでは、「安全はすべてにおいて優先する」という理念のもと安全衛生基本方針を定め、従業員が安心安全に働くことのできる職場づくりを推進しています。

安全衛生基本方針

タケイグループでは安全と衛生の確保を事業活動の基本ととらえ、全従業員が健康で安心安全に働ける職場づくりのため、下記のように安全衛生基本方針を策定しています。今後も本方針に沿って活動をし、事故や災害の防止に努めていきます。

タケイグループ安全衛生基本方針

【理念】

「安全はすべてにおいて優先する」

作業や業務においては、リスクの削減を最優先して安全の確保を行う。

【基本方針】

無事故無災害を目的とし、リスク削減について以下を基本方針とする。

1. 法令や規程等を守ることによって、安全で衛生的な職場環境を形成する。
2. 技能の向上とその継承を図ることによって、安全作業と技術を身に付ける。
3. あらかじめ作業の有害・危険性をとらえ、事前に安全衛生対策を講じる。

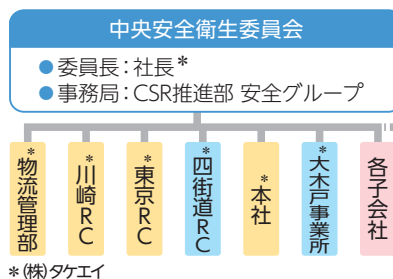
【行動指針】

1. 法令に従った管理を実施する。
2. 基本方針に従い期間的な目標を掲げ、その目標を達成するための計画と効果的な安全衛生活動を実施する。
3. 作業・業務に従事する一人ひとりが安全衛生を意識し行動する。

安全衛生推進体制

タケイグループでは、職場の安全衛生を確保するために中央安全衛生委員会を設置し、安全衛生推進体制を整備しています。同委員会は毎月開催されており、現場で実務に当たる担当者にも参加してもらうことで、グループ全体の安全衛生に関する事項を実践的な側面から協議しています。従業員の労働災害の防止、健康維持・増進や快適な職場づくりを推進するとともに情報共有の場としても活用されています。また、中央安全衛生委員会の議事内容は、グループウェアにて周知しています。

安全衛生委員会組織図



安全衛生委員会:
常時50名以上の労働者を使用する事業場

安全衛生会議:
常時50名未満の労働者を使用する事業場

安全活動

タケイグループでは従業員に対し安全にかかわるさまざまな教育訓練を実施し、労働災害の未然防止に努めています。



(株)タケイでは、現場巡視の様子

安全活動としてヒヤリハットの提案やリスクアセスメントの取り組みを行うとともに、定期的に外部の労働安全コンサルタントによる安全指導や産業医の巡視を実施し、無事故無災害に向けて取り組んでいます。

安全大会の実施

(株)タケイは2019年10月に物流管理部安全大会を実施しました。中災防安全衛生エキスパートの講師をお招きし、骨を意識した身体動作指導『骨ストレッチ』についてご講演いただきました。普段力仕事の多い乗務員を中心に、腰痛や転倒防止を意識した体の動かし方やバランスの良い立ち方などを体験しながら学びました。この様子は、安全・衛生等の総合実務誌『安全スタッフ』の12月1日号にも掲載されました。



安全大会の様子

従業員のために

タケエイグループでは、従業員一人ひとりがその能力を十分発揮し、生き生きと働くことができるような職場環境づくりに努めています。また、人材育成を推進し従業員自ら成長を促すとともに、多様な働き方ができるよう、人事諸制度の見直しも進めています。

ワークライフバランスの推進

(株)タケエイでは、半日単位で取得可能な年次有給休暇の付与、育児休業や介護休業、短時間勤務等の制度を導入しており、従業員それぞれの状況に応じて柔軟に利用できるような環境を整えています。

2019年10月からは育児・介護休業規程を改定し、育児による短時間勤務を中学校就学の始期に達するまでに延長しました。さらに、子の看護休暇も有給としました。

また、従業員の長時間残業を防止するため、パソコンの長時間使用抑止システムを導入し、残業時間の把握・管理を行っています。

		2017年度	2018年度	2019年度
有給休暇取得率		39%	44%	51%
産前産後休暇取得人数	男	—	—	—
	女	4人	4人	7人
育児休業取得人数	男	0人	0人	1人
	女	4人	4人	7人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象
※産前産後休暇の取得は原則女性のみ

定年退職者再雇用制度

(株)タケエイでは、定年退職者に対して再雇用制度を設けています。毎年多くの従業員がこの制度を利用し、長年培ってきた知識や経験を活かして働いています。

		2017年度	2018年度	2019年度
再雇用人数	男	10人	8人	3人
	女	1人	0人	1人

※データは(株)タケエイ在籍者が対象

各種表彰制度

(株)タケエイでは、長年勤めてきた従業員を慰労するとともに、今後も新たな活力をもって業務に臨んでいただけるよう、永年勤続表彰制度を設けています。勤続10年ごとに賞状等の授与、リフレッシュ休暇の付与を行っています。2019年度は30年表彰が7人、20年表彰が12人、10年表彰が11人となりました。

またタケエイグループにおいては、連結収益向上に顕著な貢献をした個人・部門・子会社等を対象とした表彰制度も設けています。



成績優秀社員の表彰式の様子

資格取得支援制度

(株)タケエイでは資格取得支援制度を設け、従業員の自己啓発の推進に取り組んでいます。環境社会検定(eco検定)をはじめ、業務を行う上で有用な約40種類の資格を対象とし、合格者に対して受験費用の補助や報奨金の支給を行っています。

2019年度はこの制度を利用して延べ41名の従業員が資格を取得しました。

種別	資格名称	2019年度取得者数
国家資格	運行管理者、衛生管理者、社会保険労務士、土木施工管理技士など	7人
公的資格	ビジネスマネージャー検定、ビジネス実務法務検定、簿記検定など	17人
民間資格	環境社会検定試験(eco検定)、ビジネス会計検定試験など	17人

社内公募制度

タケエイグループでは、2019年度2月から社内公募を開始しました。従業員に対しては自らの意思でさまざまな仕事に挑戦できる機会の提供、当社グループとしては意欲のある人材の最適配置を目的としています。

2019年度は現場業務・企画業務等の職務内容の公募を行いました。

従業員の健康にかかわる取り組み

(株)タケエイでは、従業員が心身ともに健康な状態で働けるよう、健康診断やストレスチェック等を実施しています。

健康診断では、労働安全衛生法に基づく定期健康診断および特殊健康診断のほか、希望者が併せてほかの健診項目を受診できるようオプション健診の拡充も図っています。

メンタルヘルスケアの一環としては、ストレスチェックを実施しており、希望者に対して産業医との面談の機会を設けることで個人のメンタルケアを行っています。また、ストレスチェックの結果はより良い職場環境づくりへも役立てています。

当社では、従業員の健康意識を高める活動の一環として、全国労働衛生週間の期間である2019年10月1日から7日にかけて、本社会議室に脳活動測定器を設置しました。設置期間中は多くの従業員が脳活動測定器を利用し、脳年齢・脳の健康チェックを把握することで、自らの健康管理活動に役立てました。



全国労働衛生週間に脳活動測定器を設置

従業員に向けた教育・研修

(株)タケエイでは、従業員の能力・知識向上のため、さまざまな教育・研修を行っています。新入社員研修や管理職研修といった階層別研修をはじめ、当社の事業と関連が深い廃棄物処理法にかかわる研修等の専門教育も行っています。また、部門ごとに行う勉強会や、実技講習会への参加など、実務に直結した教育も随時実施しています。

新入社員に対しては、4月から6月にかけて新入社員研修を実施しています。当社グループの事業についての座学やグループ各社のリサイクル工場見学などの集合研修を行ったあと、営業業務や配車業務、事務業務などについて実務を通じて学びます。一部の集合研修は、当社だけでなく当社グループの新入社員も含め全員で行っており、グループの垣根を超えた交流の場にもなっています。

また、新入社員についてはエルダー制度を導入しており、年齢の近い若手社員が年間を通じて新入社員の実務指導や職場生活でのフォローを行います。これにより、フォローに当たる若手社員のコミュニケーションスキルや実務指導力の向上にもつながっています。



新入社員研修の様子



新入社員研修の様子

地域・社会とのかかわり

タケエイグループは地域の一員として社会と共生する企業であり続けるために、地域に密着した活動を展開しています。

「ふるさと企業大賞(総務大臣賞)」を受賞

2019年10月、(株)津軽バイオマスエナジーが「ふるさと企業大賞(総務大臣賞)」を受賞しました。

同大賞は、地域経済や雇用等に特に貢献している事業者に贈られるもので、同社はエネルギーの地産地消を実現した点、地元雇用に貢献した点、余熱利用により農作物のイメージ向上に貢献した点などが評価され受賞に至りました。

今後も地域に根ざした事業活動を進めることで、自然や地域にさらなる貢献ができるよう努めます。



「ふるさと企業大賞」表彰式の様子(株)津軽バイオマスエナジー

環境教育の推進

タケエイグループでは、地域や社会の未来を担う子どもたちや若い世代の方々にリサイクルの大切さや地産地消のバイオマス発電の仕組みを知ってもらうために、環境教育の一環として工場見学の受け入れやインターンシップ等を実施しています。

(株)タケエイ 東京リサイクルセンターでは、2019年8月にリサイクル工場の親子見学会を開催しました。工場内の見学に加え、廃棄物の分別を体験する実験も行い、分別の仕組みを学ぶ場を提供することができました。



親子見学会の様子

当社グループ各社において、2019年度に行った主な環境教育活動は以下のとおりです。

(株)タケエイ 川崎リサイクルセンター	
2019.9	インターンシップ
(株)タケエイ 東京リサイクルセンター	
2019.8	親子見学会(東京都環境公社主催)
イコールゼロ(株)	
2019.6	松代象山保育園訪問(食べ残しを減らす学習会)
2019.7	夏休み親子体験教室2019
2019.8	インターンシップ
2019.9	戸隠保育園訪問(食べ残しを減らす学習会)
2020.2	インターンシップ
環境保全(株)	
2019.12	施設見学:八戸工業大学
富士車輛(株)	
2019.5	施設見学:守山北高校
2019.7	施設見学:瀬田工業高校
(株)津軽バイオマスエナジー	
2019.5	施設見学:弘前大学理工学部
2019.7	施設見学:弘前南高校
2019.7	施設見学:弘前大学人文社会学部
2019.8	施設見学:市内小学生(平川市教育委員会/平賀公民館)
2019.12、2020.1	施設見学:東奥義塾高校
(株)花巻バイオマスエナジー/花巻バイオチップ(株)	
2019.7	施設見学:富士大学
2019.7	施設見学:岩手大学人文社会科学部
2019.7	施設見学:弘前南高校
2019.7	施設見学:インターンシップ
2019.10	施設見学:インターンシップ
(株)大仙バイオマスエナジー	
2019.7	施設見学:秋田大学
2019.8	施設見学:協和中学校
2019.9	施設見学:秋田大学
2019.9	施設見学:インターンシップ
2019.10	施設見学:市内中学生(大仙市教育委員会)
2019.12	施設見学:秋田大学

白米千枚田にて田植えと稲刈りを実施

(株)門前クリーンパークと(株)北陸環境サービスは、世界農業遺産「能登の里山里海」の代表的な棚田である「白米千枚田」にて、2019年5月に田植えを、9月に稲刈りをそれぞれ実施しました。稲作体験を通じた地元農家の方との交流の場にもなっており、地域の皆さまと楽しいひと時を過ごすことができました。



稲刈りの様子

休耕田を活用しヒマワリ畑を整備

(株)北陸環境サービスでは、2012年より地域住民の皆さまと協力して、休耕田を活用しヒマワリ畑を整備しています。2019年も早咲きと遅咲きの2品種 計7,000本を植え、夏には満開のヒマワリが見ごろを迎えました。



整備したひまわり畑の様子

同社では、石川県独自の認証制度「いしかわ版里山づくりISO」の認証も取得しており、里山づくりプロジェクトの一環として、ヒマワリ畑の整備だけでなく隣接する沼沢地をホタルが飛び舞う環境へ整備する活動等を行っており、地域住民の憩いの場づくりの一端を担っています。

清掃・美化活動への参加

タケエイグループでは、地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃・美化活動なども定期的に行っています。

(株)池田商店では、リサイクル工場内外の清掃、環境美化活動、周辺地域の生物調査などの環境保全活動を定期的を実施しています。2019年5月には、環境美化活動の一環として新たに工場前と入口横に植栽を行いました。



植栽の様子((株)池田商店)

当社グループ各社において、2019年度に行った主な清掃・美化活動は以下のとおりです。

(株)タケエイ	
2019.4.12	港区クリーンキャンペーン(港区主催)
2019.5	グリーンアクションたまがわ(大田区主催)
2019.5	ゴミゼロ運動(四街道市主催)
2019.10	ビーチクリーンアップ in 城南島
2019.12	殿町夜光グリーン大作戦(川崎市主催)
(株)池田商店	
2019.5	周辺美化活動(植栽工事の実施)
2019.12	保土ヶ谷バイパス清掃および小川アメニティ上流の清掃
(株)タケエイメタル	
2019.6	町内清掃
東北交易(株)	
2019.4.7.10	立子山野城地区の道路等の清掃・整備活動
(株)グリーンアローズ関東	
2019.4~2020.3	近隣道路等の清掃(月1回および強風・台風通過後)
イコールゼロ(株)	
2019.6	春の大豆島グリーン作戦(大豆島地区住民自治協議会主催)
2019.10	秋の大豆島グリーン大作戦(大豆島地区住民自治協議会主催)
(株)北陸環境サービス	
2019.4~11	平栗いこいの森 定期清掃活動(月1回)
2019.10	内川里山美化キャンペーン
(株)信州タケエイ	
2019.4~2020.3	諏訪リサイクルセンター周辺の一斉清掃(月1回)
2019.7.10	杉菜池地区春・秋の土草刈り・側溝の泥上げ協力
2019.6	エコ・ウオーク「グリーン塩尻」大作戦
2019.8.9	諏訪湖花火大会・新作花火大会ごみ分別指導、道路清掃協力
2020.3	下金子区用排水路・側溝川ざらい、文出第二町内会春の用水路清掃協力
富士車輛(株)	
2019.5	ゴミゼロ大作戦
2019.7	琵琶湖清掃
(株)津軽バイオマスエナジー	
2019.4	市民一斉大清掃
2019.5.7.9.11.2020.3	事業所周辺の清掃活動
(株)田村バイオマスエナジー	
2019.4	さくらの里グリーンアップ作戦
2019.6	鎮守の森プロジェクト
2020.2.3	産業団地内清掃活動

会社概要(2020年3月末現在)

タケエイグループでは各地の企業と積極的に連携を深め、事業領域と事業地域を拡充しています。

これにより、お客さまの多様なニーズに最適なソリューションサービスをお届けできる体制づくりを進めています。

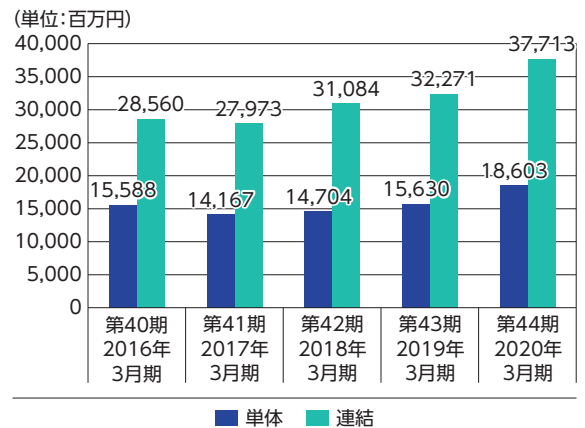
会社名	株式会社 タケエイ
代表者	代表取締役社長 阿部 光男
設立年月日	1977年3月7日
資本金	6,640百万円
所在地	東京都港区芝公園2丁目4番1号A-10階 TEL:03-6361-6830(代表) FAX:03-6361-6835
従業員数	単体 610名 連結 1,304名
上場取引所	東京証券取引所市場第一部

事業推移

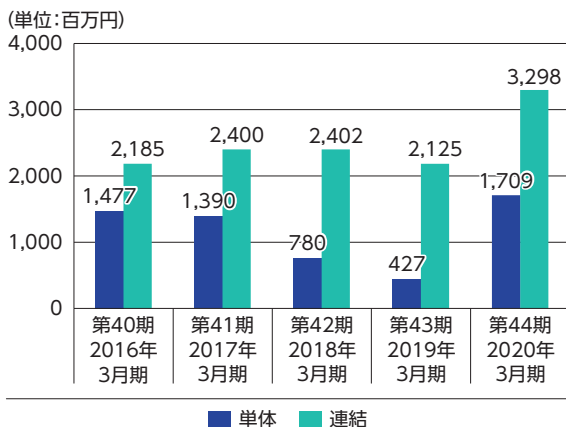
タケエイグループは、主力である廃棄物処理・リサイクル事業の受入体制強化を図るとともに、再生可能エネルギー事業、環境エンジニアリング事業、環境コンサルティング事業の拡大にも努めることにより、「総合環境企業」としての成長を促進すべく取り組んでまいりました。特に主力の廃棄物処理・リサイクル事業は、(株)タケエイの業績が順調に推移し、前年同期を上回る売上高および営業利益を確保し、グループ業績を牽引しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は37,713百万円(前連結会計年度比16.9%増)、営業利益は3,298百万円(同55.2%増)、経常利益は3,025百万円(同66.8%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は1,765百万円(同540.5%増)となりました。

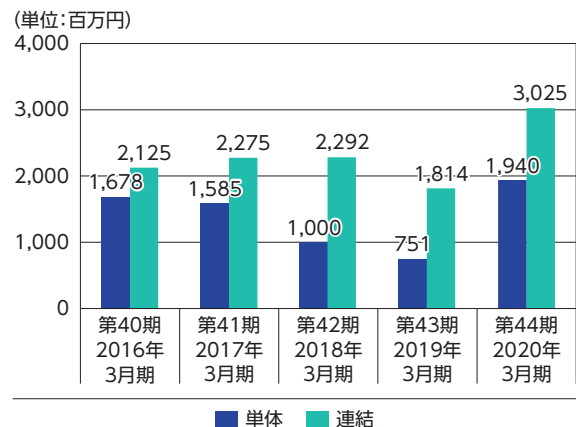
売上高



営業利益



経常利益



事業概要

建設廃棄物処理・リサイクル

建設工事や解体工事等から発生する建設混合廃棄物を中心に、各種の機械設備や再資源化施設による徹底したリサイクルを行っています。



(株)タケエイ(手選別風景)

マテリアルリサイクル

廃石膏ボードや鉄・非鉄スクラップ、工場から排出される廃液など特定の品目は、再資源化の品質と効率性を高めるため、その品目に特化したリサイクル工場で処理しています。



(株)タケエイメタル(圧縮されリサイクルされる金属類)

ランドフィル(最終処分場)

タケエイグループでは安定型最終処分場および管理型最終処分場を保有しています。長年にわたり培われた経験を活かした施設運営を行っています。



(株)北陸環境サービス(管理型最終処分場)

環境コンサルティング

社会問題となっている有害廃棄物等の測定・分析や適切な処理の提案・コンサルティングなどを通じ、お客さまのニーズに応えます。



環境保全(株)(分析風景)

環境エンジニアリング

環境装置や特殊車両の開発製造・販売を行っています。廃棄物処理に関するノウハウに機械設計・製造のノウハウを融合・発展させ、新たな環境装置の開発を進めます。



富士車輛(株)(RPF製造設備)

再生可能エネルギー

間伐材や剪定枝などの未利用材を活用し発電する木質バイオマス発電事業や、最終処分場の跡地を有効活用した太陽光発電事業などにより、地域・自然環境に貢献できる発電事業を行っています。



(株)花巻バイオマスエナジー(木質バイオマス発電所)

事業ハイライト

災害復興に最大限協力

2019年9月から10月にかけて発生した台風第15号、台風第19号および台風第21号により、日本各地に甚大な被害が及びると同時に大量の災害廃棄物が発生しました。当社は千葉県や長野県の産業廃棄物資源循環協会等として、各市からの要請に応えるかたちで各地域の災害廃棄物処理に協力しました。

そのほかにも、東日本大震災による帰還困難地域における復興事業にも継続して携わっており、除染廃棄物の収集運搬業務等を行っています。

タケエイグループでは引き続き、災害復興への協力を行います。



南房総市の仮置き場における分別作業の様子

新しい管理型最終処分場が完成

2019年10月、(株)北陸環境サービスが建設を進めてきた管理型処分場「平栗第2管理型処分場」が竣工し、同年12月より廃棄物の受け入れを開始しました。

埋立容量は約450,000m³で、月3,000m³の受け入れで12年間の埋立を計画しています。水処理については過去50年間における最大雨量にも耐えられるよう設計しており、徹底した水質管理を行うとともに、法令や条例等の規制を遵守していきます。



新しい管理型最終処分場((株)北陸環境サービス)

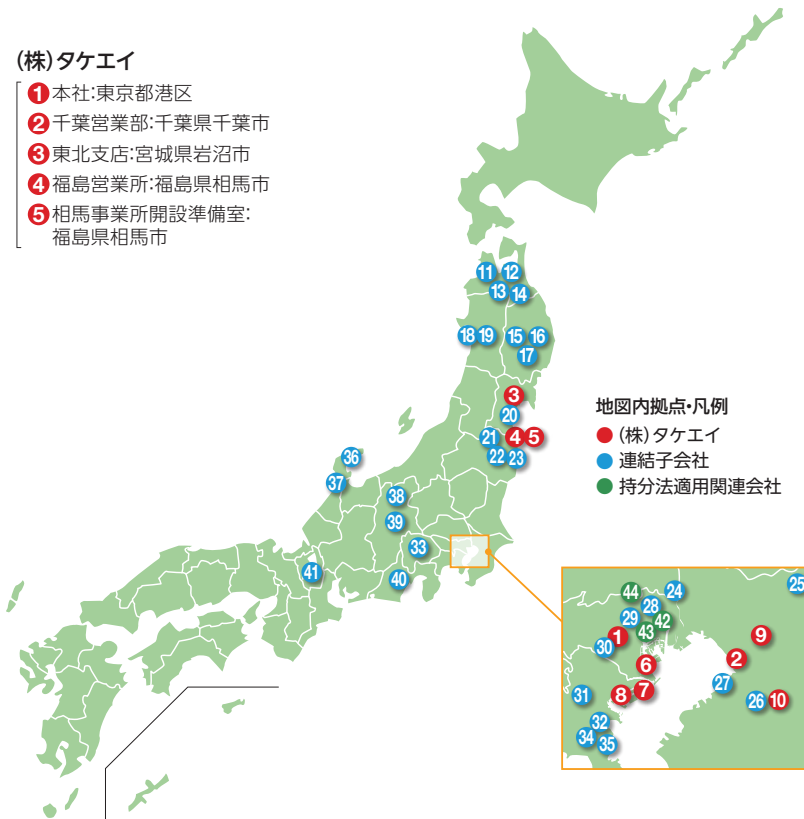
当社グループの災害廃棄物処理の協力状況(台風第15・19・21号にかかわるもの)

社名	行政名	協力状況
(株)タケエイ	千葉県南房総市、 千葉県館山市	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮置き場(一次集積所)における廃棄物の分別・保管・搬出業務の管理 ● 中間処理工場、最終処分場での廃棄物の受け入れ ● 千葉県産業廃棄物資源循環協会として協力
	千葉県茂原市	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間処理工場、最終処分場での廃棄物の受け入れ ● 千葉県産業廃棄物資源循環協会として協力
	千葉県山武市 他	<ul style="list-style-type: none"> ● 最終処分場での廃棄物の受け入れ ● 千葉県産業廃棄物資源循環協会として協力
	神奈川県横浜市	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮置き場(一次集積所)における廃棄物の分別・保管・搬出業務の管理
	神奈川県川崎市	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮置き場(一次集積所)における廃棄物の分別・保管・搬出業務の管理 ● 中間処理工場での廃棄物の受け入れ
	栃木県鹿沼市	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間処理工場での廃棄物の受け入れ
(株)信州タケエイ イコールゼロ(株)	長野県長野市	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮置き場(一次集積所)における搬入業務の管理 ● 長野県資源循環保全協会として協力
イコールゼロ(株)	長野県長野市	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路に放置された家庭ごみ等の回収 ● 長野市委託清掃事業協同組合として協力
(株)タケエイグリーンリサイクル	神奈川県鎌倉市、 神奈川県三浦市	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間処理工場での廃棄物(剪定枝、丸太等)の受け入れ

事業拠点(2020年6月末現在)

(株)タケエイ

- ① 本社:東京都港区
- ② 千葉営業部:千葉県千葉市
- ③ 東北支店:宮城県岩沼市
- ④ 福島営業所:福島県相馬市
- ⑤ 相馬事業所開設準備室:
福島県相馬市



地図内拠点・凡例
 ● (株)タケエイ
 ● 連結子会社
 ● 持分法適用関連会社

⑥ 東京リサイクルセンター
 混合廃棄物のリサイクル工場
 [東京都大田区]

⑦ 川崎リサイクルセンター
 混合廃棄物のリサイクル工場
 [神奈川県川崎市]

⑧ 塩浜リサイクルセンター
 積替保管施設
 [神奈川県川崎市]

⑨ 四街道リサイクルセンター
 混合廃棄物のリサイクル工場
 [千葉県四街道市]

⑩ 大木戸最終処分場
 安定型最終処分場
 [千葉県千葉市]

⑪ 環境保全(株)
 計量証明事業、環境影響調査等
 [本社:青森県平川市
 支店:宮城県仙台市、東京都港区]

⑫ (株)津軽バイオマスエナジー
 バイオマス発電事業
 [青森県平川市]

⑬ (株)津軽あつぷるパワー
 小売電気事業
 [青森県平川市]

⑭ (株)津軽エネベジ
 熱エネルギーを活用した農業
 [青森県平川市]

⑮ (株)花巻バイオマスエナジー
 バイオマス発電事業
 [岩手県花巻市]

⑯ 花巻バイオチップ(株)
 バイオマス燃料製造事業
 [岩手県花巻市]

⑰ (株)花巻銀河パワー
 小売電気事業
 [岩手県花巻市]

⑱ (株)大仙バイオマスエナジー
 バイオマス発電事業
 [秋田県大仙市]

⑲ (株)大仙こまちパワー
 小売電気事業
 [秋田県大仙市]

⑳ (株)グリーンアローズ東北
 廃石膏ボードのリサイクル工場
 [宮城県岩沼市]

㉑ 東北交易(株)
 汚泥・燃えがら・ばいじん・銻さい等の
 リサイクル工場
 [福島県福島市]

㉒ (株)田村バイオマスエナジー
 バイオマス発電事業
 [福島県田村市]
 (設置準備中)

㉓ (株)ふくしま未来パワー
 小売電気事業
 [福島県田村市]

㉔ (株)ギブロ
 廃石膏ボードのリサイクル工場
 [埼玉県八潮市]

(株)タケエイエナジー&パーク

㉕ 太陽光発電事業
 [千葉県成田市]

㉖ パークゴルフ場運営
 [千葉県千葉市]

㉗ 市原グリーン電力(株)
 バイオマス発電事業
 [千葉県市原市]

㉘ (株)アースアプレイザル
 環境調査、エンジニアリングレポート、
 不動産鑑定業
 [東京都千代田区]

㉙ (株)T・Vエナジーホールディングス
 再生可能エネルギー事業への投融資・運営
 [東京都港区]

㉚ (株)タケエイ林業
 山林の経営・管理等
 [東京港区]

㉛ (株)池田商店
 廃コンクリート・銻さい等のリサイクル工場
 [神奈川県横浜市]

㉜ (株)グリーンアローズ関東
 廃石膏ボードのリサイクル工場
 [神奈川県横須賀市]

(株)タケエイグリーンリサイクル
㉝ 剪定枝のリサイクル工場、堆肥(有機)製造・販売
 [山梨県富士吉田市]
㉞ バイオマス発電事業
 [神奈川県横須賀市]

㉟ (株)横須賀アーバンウッドパワー
 小売電気事業
 [神奈川県横須賀市]

㊱ (株)門前クリーンパーク
 管理型最終処分場
 [石川県輪島市]
 (設置準備中)

㊲ (株)北陸環境サービス
 管理型最終処分場
 [石川県金沢市]
 廃プラスチックのリサイクル工場
 [石川県金沢市]

㊳ イコールゼロ(株)
 廃酸・廃アルカリ等のリサイクル工場
 [長野県長野市]

㊴ (株)信州タケエイ
 混合廃棄物のリサイクル工場
 [長野県諏訪市]
 廃コンクリート等のリサイクル工場
 [長野県安曇野市]
 解体工事
 [長野県松本市]
 安定型最終処分場
 [長野県塩尻市]

㊵ (株)タケエイメタル
 鉄・非鉄スクラップ等のリサイクル工場
 [静岡県静岡市]

㊶ 富士車輛(株)
 環境装置・環境プラント・
 特殊車両の開発・製造・販売
 [本社工場:滋賀県守山市
 支店:東京都港区、大阪府大阪市]

㊷ (株)グリーンアローズホールディングス
 廃石膏ボードリサイクル事業への投資
 [東京都港区]

㊸ (株)V・Tエナジーマネジメント
 バイオマス発電所の運転・維持管理
 [東京都港区]

㊹ 循環資源(株)
 バイオマス発電燃料の貯蔵・販売
 [東京都北区]

2020年7月吉日

各 位

株式会社タケエイ

タケエイグループCSR報告書2020のご送付

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度弊社は「タケエイグループCSR報告書2020」を発行いたしましたので、ご案内申し上げます。

本報告書では、当社グループの事業が担う役割を紹介するとともに、2019年度の主な取り組みについて3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から報告しております。

なお、裏面にアンケートをご用意いたしましたので、ご一読の後、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。今後の活動や本報告書をより充実させるための参考にさせていただきます。

今後とも、さらなるご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

《お問い合わせ先》

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ

〒105-0011 東京都港区芝公園2丁目4番1号 A-10階

TEL:03-6361-6836 FAX:03-6361-6839

HP: <http://www.takeei.co.jp/>



「タケエイグループCSR報告書2020」アンケート

株式会社タケエイ

CSR推進部 ISO推進グループ 行

FAX.03-6361-6839

「タケエイグループCSR報告書2020」をお読みいただき、ありがとうございました。

今後の活動や本誌をより充実させるため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客さま お取引先 タケエイグループ事業所の近隣の方 株主・投資家
- 行政機関 調査・研究機関 NGO/NPO 学生
- 企業・団体のCSR・環境担当者 協力会社 タケエイグループ従業員
- タケエイグループ従業員の家族 その他()

Q2 本報告書を何でお知りになりましたか？

- タケエイグループ従業員から入手 タケエイグループ事業所・工場への訪問時
- タケエイホームページ 説明会、セミナー、展示会等 その他()

Q3 本報告書は読みやすかったですか？

- 読みやすい 読みにくい

その理由(複数回答可)

- レイアウトが見やすい レイアウトが見にくい 情報量が多い 情報量が少ない
- 文字が大きい 文字が小さい イラスト・写真が多い イラスト・写真が少ない
- その他()

Q4 タケエイグループのCSR活動への取り組み・方針について、ご理解いただけましたか？

- 十分に理解し、期待している 理解できた あまり理解できない 期待もできず、理解もできない

Q5 下記A～Cの質問に該当する項目番号を選んでご記入ください(それぞれ3つまで)。

- A** 特に関心を持たれた記事は? () **B** 説明が不十分と感じた記事は? () **C** 理解できなかった記事は? ()

- ①編集指針 ②トップメッセージ ③タケエイグループの価値向上プロセス
- ④持続可能な未来に向けて 再資源化ソリューション ⑤特集:株式会社タケエイグリーンリサイクル 横須賀バイオマス発電所
- ⑥タケエイグループのCSR ⑦コーポレート・ガバナンス ⑧環境とのかかわり ⑨事業活動に伴う環境負荷
- ⑩エコ・ファーストの取り組み ⑪環境負荷低減活動 ⑫お客さまのために ⑬安全衛生のために ⑭従業員のために
- ⑮地域・社会とのかかわり ⑯会社概要 ⑰事業概要 ⑱事業ハイライト ⑲事業拠点

Q6 本報告書やタケエイグループの活動に期待すること、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

()



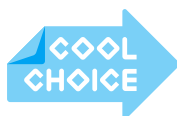
株式会社タケエィ

〒105-0011 東京都港区芝公園 2丁目4番1号 A-10階

お問合せ先: CSR推進部 ISO推進グループ

TEL.03-6361-6836 FAX.03-6361-6839

<http://www.takeei.co.jp>



印刷における環境配慮

